

与論における造形美術指導の実践

池 川 直

A practice of Teaching Arts in Yoron

IKEGAWA Sunao

この報告書は、「僻地複式学級における図画工作科の指導」（鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 特別号3号 2007年3月発行 pp.83~86）を執筆後、実際にへき地複式学級での授業実践を経て、図画工作科授業のあり方を探る目的で行ったものである。授業実施校には、いくつかの候補があったが、平成19年度鹿児島大学公開講座が与論町において、鹿児島県離島審議会協力の下開催され、筆者がその講座「しまの素材で、しまの豊かさを表現する」を担当したことから、与論町の小・中学校で実施することにした。さらに、学校外の教育における造形活動とのかかわりの中の指導について、上記講座の中で実践した内容について報告するものである。

以下、小学校における提案授業1件、社会教育活動における中学生への造形指導2件について報告する。

I 図画工作科の提案授業（対象：与論町立那間小学校4年生）

II 地域の素材を活用した造形指導①～サンゴ石でモニュメント「ポセイドンの馬をつくろう」

III 地域の素材を活用した造形指導②～サンゴ石でモニュメント「ライオン像をつくろう」

I 図画工作科の提案授業（対象：与論町立那間小学校4年生）

実施日：平成20年1月11日 対象学年4年生20名

題材名：へん身パッ！（赤土粘土を使って）

この題材は、鹿児島県で使用されている教科書日文 第3・4学年下巻 P.32の「へん身パッ！ 身近なざいりょうで」からとった。図画工作・美術教科は題材開発に教師の力点がおかれがちであるが、題材をどのように解釈し、地域ならではの素材と題材感を提案することに力点をおいてみた。また、教師を目指す学部学生に題材設定の意義と目的の意味づけと、授業を通してそれが達成できたか、また、離島へき地での授業実践のいい機会であると考えた。さらに、ここでは日頃美術館で生の美術作品に触れる機会も少ないことから、映像による鑑賞活動も表現活動の中に組み込む形をとった。鑑賞活動の中から自分が表現できる、また表現したいテーマやシーンを見つけ、表現する幅を広げるねらいがこの題材に含まれる点が、特徴である。以下に掲載した図画工作科学習指導案は学部4年生の山下洋平君が、指導を経て作成し

たものである。授業の流れとしては、美術作品の鑑賞活動の中から主人公の心情になりきって、与論島で採れる赤土を使い、その場面を立体表現（彫塑活動）するという内容である。

図画工作科学習指導案

平成 20年 1月 11日

指導者 1時間目 鹿児島大学美術専修4年 山下 洋平

2時間目 池川 直

1 題 材 へん身バツ！（赤土粘土を使って） 小学4年

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

この題材は、粘土を使って想像の世界にへん身して入り込んだ自分を、造形遊びを通じて表現させることで、豊かな発想や創造的な技能を働かせ、進んで表現する態度を育てる。そして材料を通して身近な素材に関心をもつとともに、作り出す能力、創造的な工作の能力を伸ばすことを目的にしている。（1 目標 - (1)）

また、鹿児島市立美術館、長島美術館に所蔵されている絵画から、その地元の作家や世界の名画の鑑賞を通して、絵画の中の風景や情景、人物から、与論島では見られない世界を想像し深めていくことができ、与論島にある赤土という身近にある地元の素材を使って、感じたイメージと想像の世界で子どもたちがへん身した人物像または想像の像を造形遊びを通して表現していく活動である。

（2 内容 A 表現(1)-ア造形遊び (2)つくりたいものをつくる）

そして、赤土という材料があることに気づかせ、その素材から出来上がった作品のよさ、素材のよさなどに関心を持ち、身近にある自然の材料に対する実体験と感覚、作品の面白さに気づかせる。（2 内容 B 鑑賞-A）

(2) 指導の基本的な立場

本題材では、導入部分で絵画を鑑賞させることでストーリーや状況を自由に想像させる。さまざまな作家の表現をふまえながら面白さや与論島にはみられない風景を想像させることで表現と想像を広げさせていくことができると考えている。また、鑑賞で使われる絵画は、鹿児島市立美術館、長島美術館の所蔵されている絵画を元に、世界の有名な絵画、日本の作家、鹿児島島の作家の絵画（※絵は10点前後。作家及び作品名は最後に記載）を鑑賞する。子どもたちに、鹿児島県内にも有名な作家や作品があることにふれさせる。絵画は、パソコンのソフトウェアを使って、プロジェクターで出力するかたちで子どもたちに鑑賞させる。

制作において、絵画からどういった想像をしたのか、それはどういった場面で自分は何をしていたのかなど自分の想像の姿を明確にさせるよう導く。

制作では、与論島には赤土という焼き物の素材が身近にあることに気づかせ、赤土という素材を通して立体表現を体験させる。身の回りのものやへらや粘土を切る糸などの道具、自身の体などで表現できることを示すとともに、粘土の特徴であるくっつける・つなげる・のぼす・積むなどさまざまな技法の存在を提示する。

このような学習を通じて赤土、粘土という限定した素材を体感し、また、表したいこと、作り出す喜びや楽しさを味わうことができるようにする。

(3) 指導上の留意点

- 参考作品を使って発想を自由に広げることができるようにする。
- 友達のアイディアや自他の考えにふれ、制作を行いながら良さや違いに気づく。

- c) ヘラや粘土を切る糸などの道具の使い方に触れ、自由に表現できるように制作させる。
- d) グループや各自で何を表現したいのかを明確にさせうえて、ほかのグループの表現の良さや、面白い点に気づく。

3 指導計画（全2時間）

1 時間目 鑑賞と発想

与論島では普段子どもたちが見ることのない、鹿児島市の美術館に所蔵されている作品や、日本や鹿児島島の作家の作品にも触れ、その絵から感じられることや想像を深めさせ、自由に発表させる。

(35分)

次に、絵から感じ、想像した世界、あるいは作品の絵画の中の自分を想像し制作に結びつける。その際道具の使い方にふれる。

(10分)

2 時間目 制作と鑑賞

1 時間目で感じたことをもとに赤土で自由に塑像し表現する。

(40分)

最後に、完成した作品をみんなで鑑賞し活動を振り返る。デジタルカメラで撮影し、保存する。制作でできたものは、形として残せる場合は残す。

(5分)

4 準備

粘土へら 粘土板 粘土をきる糸

手拭タオル 汚れてもよい格好

プロジェクター プロジェクターとつながられるパソコン、またはハードウェア

■作家・作品 鹿児島市立美術館(予定)

海老原喜之助 ・樵夫と熊

・サーカス ・自画像

・貨物船とヨット

大高禮造 ・桜島

黒田清輝 ・桜島爆発図「噴煙」「降灰」

「荒廃」「湯気」

小池鐵太郎 ・少年

城ヶ崎悟 ・森

花田正實 ・バリー裏街

藤島武二 ・桜狩(習作)

矢沢一翠 ・蕃社 ・タイヤル族

和田英作 ・赤い燐寸

Raphael Colln

・オデオン座天井画下絵

Alfred Sisley アルフレッド・シスレー

・サン・マメスのロワン河畔の風景

Claude Monet クロード・モネ

・睡蓮

■長島美術館 (作品は未定。代表の作品を予定)

オーギュスト・ルノワール

モーリス・ド・プラマンク 「橋」

パブロ・ピカソ 「女の顔」、「肘をつく裸婦」

マリー・ローランサン 「青い服の少女」

エドガー・ドガ 「舞台の踊り子」

エドゥアール・マネ 「すみれのブーケを

つけたベルト・モリゾ」

クロード・モネ 「日傘の女性」

ゴッゲン

シャガール 「ヴァイオリン弾き」

「誕生日」



① ② ③

④ ⑤ ⑥

① 1時間目の導入、鑑賞指導(指導者:山下洋平) ②2時間目 赤土粘土による立体表現(指導者:池川直) ③2時間目の表現指導 ④⑤⑥生徒作品
出来上がった作品は、地元の陶芸窯で焼成後、各自持ち帰った。

Ⅱ 地域の素材を活用した造形指導①～サンゴ石でモニュメント「ポセイドンの馬をつくろう」

実施日:平成20年1月12日~13日

鹿児島大学特別公開講座『“オンリーワンの島づくり “を科学するー与論町の個性と可能性を考えるー” 鹿児島大学同講座運営委員会及び与論町・与論町教育委員会共催、鹿児島県離島振興審議会協力

会場:与論港コースタルリゾート

参加条件:一般から小学生

与論島はサンゴ礁が隆起してできた島のため、地盤がすべてサンゴ石である。大半は加工されて建築材料として使用されたり、民家の塀に積み上げて日常の生活空間の中に活用されている。このありふれた材料を使って、島のシンボルになるものを作ろうとする取り組みを講座として取り上げた。この島は、風景や島の成り立ちの神話の類似性からギリシャ、ミコノス島との姉妹都市を結んだとされ、島の建築物も白を基調とした色でまとめようとする住民運動も積極的に自治体に支持されており、ギリシャ風の景観が印象的である。そのこともありモニュ

メントの題材を、ギリシャ神話からとることにした。そのもとになったのは、筆者制作「ポセイドンの馬」(FRP W60, D50, H150 第32回日彫展出品)である。特に、ここでは、一般人のほか与論中学校生徒8名が参加した。日頃、中学校の教育課程の中では、扱う導も行っていたことになる。そもそも現在の中学校の美術科で扱われる時間数が、年間1年 45時間、2年、3年各 35時間と少なく、そのなかで表現(平面、立体)、鑑賞(表現には絵画、彫塑、デザイン、工芸が含まれる)と内容が盛りだくさんあるため、今回のような中学生や学生の社会教育活動への参加は、大変意義があるように思える。それは一般の参加者の技術や豊富で多様な考え方を、ものづくりを通してのふれあいの中から学び取ることにつながっていくからである。教育の場は学校だけにあるのではなく、このようなことを通してさらに「生きる力」を身につけることができるのではないだろうか。

制作工程は次のとおりである。

- ① 原型になるスケッチをもとに、参加者が作ろうと思う部分のかたちを彫り上げ、モルタル(セメント+砂+粘着剤+水)で積み上げていく。
- ② 像の中心になる箇所に鉄筋で補強する。
- ③ 馬の頭部になる部分は、大きいサンゴ石を使用し、最後に設置する。
- ④ あまったサンゴ石は周辺部の装飾に使用する。
- ⑤ 完成。



与論中学校での授業風景

Technical drawing showing a cross-section and plan view of a stone wall structure.

Top Section (Cross-section):

- Structure: A trapezoidal stone wall on a concrete foundation.
- Labels:
 - 最上層 (Top Layer)
 - 基礎コンクリート (Foundation Concrete)
 - 基礎石 (Foundation Stone)
 - 積石コンクリート (Masonry Concrete)
 - 積石 (Masonry Stone)
 - コンクリート部材 (Concrete Member)
 - 積石コンクリート (Masonry Concrete)
 - 積石 (Masonry Stone)
- Dimensions:
 - Top width: 800
 - Bottom width: 300 + 300 + 800
 - Height: 300
 - Foundation height: 100
 - Total height: 400

Bottom Section (Plan View):

- Structure: A square stone wall plan view.
- Labels:
 - 積石コンクリート (Masonry Concrete)
 - スチラスアンダー (Stylus Under)
- Dimensions:
 - Side length: 190
 - Inner square side length: 100
 - Outer square side length: 190
 - Height: 300

- 6 -

鹿児島県離島振興審議会協力においての「ポセイドンの馬」制作が実績となり、さらに参加者からの要望もあり、鹿児島大学の地域貢献のプロジェクトとして発展していくことになった。

今回も学外実習として、与論中学校美術部生徒6名も昨年に引き続き参加した。前回に比べ、作業の要領もよく、さまざまな工夫することができるようになった。

i 技法面として

- のみ、たがね、ハンマーの使い方がうまくなった。
- 石材が割れる方向性が予測できるようになった。
- モルタルの調合がうまくなった。
- グラインダー工具類の体験ができるようになった。

ii 表現面として

- 部分と全体を見通せるようになった。(立体感の把握)
- 美しい面や仕上がりを追求し、道具の使い方など工夫するようになった。
- 自分の表現だけでなく、他人の表現のよいところを認め、表現に取り入れるようになった。

この生徒たちと数人の生徒は、そのほか夏休みを利用して3泊4日(船中2泊)で鹿児島市内の美術館、鹿児島大学を見学するなど、その他の経験を積んでいることもいい結果を生むことにつながっていることが考えられる。

今回のモニュメントのテーマもギリシャ神話からのもので、「デロス島のライオン像」をテーマに設定した。制作過程は次のとおりである。

- ① 像高を2mと設定し、構造体をステンレス製のパイプ(直径25mm)溶接したものを製作。
- ② 構造体を設置し、固定。
- ③ 原型になるスケッチをもとに、参加者がサンゴ石を作ろうとする部分のかたちを彫り上げ、ステンレス製の構造体の上に積み上げていく。
- ④ モルタル仕上げを施す。
- ⑤ 完成



サンゴ石の成型



与論中学生徒と一般人



大学生



最後の仕上げ①



最後の仕上げ②

参考文献

- ・La Grèce antique GEO HISTOIRE 2008年
- ・僻地複式学級における図画工作科の指導 池川直 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要特別号3号 2007年

引用資料

- ・「図画工作科学習指導案」 山下 洋平氏
- ・「ポセイドンの馬 スケッチ、設置図」 与論町

協力

- ・写真図版 寺床 勝也氏、下薄 友美氏